【論文】

大分市の戦災復興に関する調査研究　その１

A STUDY ON THE POST-WAR RECONSTRUCTION OF OITA CITY

日髙 圭一郎*1
Keiichiro HITAKA

Abstract : This study is concluded that Ueda pledged in the election for mayor of Oita city as follows: (1) construction of the Omichi tunnel for the residents of the southern part of Oita city; (2) construction of the harbor rail road for promoting Oita port; and (3) petition the government to sell off the state forest for the housing reconstruction in Oita city.

Keywords : *Tamotsu UEDA, Post-war Reconstruction, Oita city*
上田保, 戦災復興, 大分市

1. はじめに

筆者は、ユニークな都市づくりを展開し、戦災復興期の大分市を牽引した上田保・元大分市長（以下、上田という。）がアイデア市長と呼ばれた要因を明らかにする過程として、これまで、彼の戦災復興における都市づくりに関わる公約について調査を継続的に行ってきた。

前回の調査結果の報告[1)]では、上田の伝記等の文献、当時の大分合同新聞の報道記事を調査することを通じて、初回選挙時において①大道トンネルの建設、②臨港線の建設、③国有林の払い下げによる復興用木材の供給の 3 つが主要な公約であることがわかった。ただし、その詳細な内容は把握できておらず、継続的な調査が課題となっていた。

本稿では、市長選当選後の大分合同新聞の報道記事と、市議会での上田の発言の調査結果について報告を行う。

2. 大分合同新聞の報道記事における市長当選後の上田保の発言について

ここでは、大分合同新聞の報道記事から、市長当選後の上田の発言をみていく。まず、上田の初登庁に関する報道記事を以下に示す。

【1947 年 4 月 9 日　大分合同新聞　朝刊】

上田大分市長初登庁

初代公選市長に当選の大分市長上田保氏は八日午前十時初登庁し衛藤市長代理から事務引継ぎを受け午後一時半庁員にあいさつを述べたのち市内各方面にあいさつまわりを行った、上田市長は語る

市をよくするための建設的意見を聞きこれを市政に反映させたいと思っているので今後当分第二日曜と第四日曜に登庁午前八時から正午まで直接市民の希望意見を聴くことにする、不平不満でも建設的なものならば結構であるからどしどし意見を述べてもらいたい、その変わりかげ口はいってもらいたくない、時には自分から出かけて行って学校区毎に懇談会を催したいと思っている、市の今日の急務は戦災復興であるからこれには大いに馬力をかける。選挙中公約したこともぜひ実現させる覚悟だ。

上田の初登庁を伝える報道記事における上田の発言では、戦災復興が市政の急務であるとの認識は示されているものの、戦災復興における都市づくりに関わる具体的な公約は確認できない。また、市政運営においては、市民とのコミュケーションを重視する姿勢を示し、初の公選市長としての自覚が確認できる。

＊1　建築都市工学部建築学科

次に、上田の市長当選後の初市会に関する報道記事を以下に示す。

【1947 年 4 月 17 日　大分合同新聞　朝刊】

大分市会定例会

大分市会定例会を十六日午後三時開き初代公選市長上田保の就任挨拶、古本市会議長の歓迎の言葉あったのち、百万円一時借入れならびに新制中学施設六十万円の起債、二百六万六千八百五十四円の二十二年度予算追加を附議し原案通り可決した　＜以下省略＞

上田の就任挨拶があったことは確認できるが、挨拶の内容については示されていない。この就任挨拶の内容については本稿において後述する。

上田の市政運営に関する考え方等に関する報道記事を、以下に示す。

【1947 年 5 月 3 日　大分合同新聞　朝刊】

公僕精神に全吏員を導く　大分市長上田保

新憲法の精神を汲み市民の想を市政の面に反映させるため現に第二日曜、第四日曜は午前中登庁し希望や苦情を聞いている、今度はこれと並んで自分も街頭に進出し、二、三町内会くらいを単位に老若男女の集りを願いその土地の声を聞くつもりだ、役所の事務も窓口のガラス戸を全部取りはずして開放したが同時に窓口に主任者を置き事務を敏速に処理、市民の一人一人が自分の事務所へでも行くような気安さで市役所にこられる空気をつくりたいと思っている、月水金に課長会同を催しているが、今後は毎週土曜日の午後各課若手吏員とひざを交えて懇談、事務の都合で長く待たせた人には「御苦労さま、長くお待たせしました」の声が自然に出るまで公僕精神に徹した姿に全吏員を導いて行く

この報道記事においても、市民とのコミュケーションや、市民サービス重視の姿勢が示され、公選市長としての自覚が確認される。

1947 年 4 月 30 日には、地方自治法施行後、初の市議会議員選挙が実施されている。その際に当選した議員による初市議会に関する報道記事を以下に示す。

【1947 年 5 月 11 日　大分合同新聞　朝刊】

議長に秦（正直）氏、副議長梶原氏　助役には安藤玉彦氏を選任　大分初市会

新議員登庁の初大分市会は全員出席して十日午後一時五分開き先ず正副議長を選挙し議長に秦正直氏、副議長に梶原市浩氏当選、上田市長から助役に安藤玉彦氏（現別府高女校長）を推薦同意を求め、市長の手元に持ち込まれている他の助役候補と比較選考の結果安藤玉彦氏を助役に専任、引続き町内会廃止に伴う駐在員設置のため市吏員増員の件を附議原案の通り可決、安東助役の就任あいさつあって四時四十分初市会を終わった。近来にない多数の傍聴があり議員の論戦も活発であった

この報道記事では、上田による安藤玉彦の助役推薦については報じられているが、その他の上田の発言は確認できない。

3. 市会及び市議会での上田保の発言について

ここでは、上田当選後に、開かれた大分市会と大分市議会での上田の発言を、その会議録からみていく。

1947 年 4 月 16 日の市会定例会での市長挨拶の内容を、以下に示す。

【1947 年 4 月 16 日市会定例会での市長挨拶】

私が今度の公選市長上田保であります
至って頭が悪く腕も鈍く十万市民の市長としてその資格なきは充分自覚致して居りますが然し過去三十年余を東京に在って人一倍愛市の念に燃へ已むに已まれない気持で立候補したのであります
市民各位の多大なる御支援によりまして市長に就任しました今後は私が予てより念願して居ります事に就いて市吏員は勿論の事皆様方の御指導と御鞭撻とを得まして馬車馬になってその具現の為に働きたいと考えて居ります
私にとっては意義深い一番最初の市会でありますが、皆様方には最後の市会でありますことを考えますとき誠に奇しき運命であると考えて居ります
顧うに皆様方は過去五ヶ年間吾が国始まって以来の多事多端の市行政の為に豊富なる智識を傾注し御尽力されて参りましたが今度の改選を目前に致しまして再び出られる方又は之を最後に辞められる方がある事を考えますとき私は願えるならば全部の方々が御当選されてその豊富なる智識と経験とを注ぎ下さるならばこの上田最も幸と思うのであります
再び出られます方と辞められる方とを問わず折角五ヶ年の永間市の為に御尽力されましたその御体験と豊富なる智識とを以て市の為に蘊蓄を傾けられまして市長上田保の為に一層御指導と御鞭撻とをお願いい致します
何を申しましても鈍才なる上田皆様の御気に召さぬ点が多々あると存じます何卒叱正の答を与えて下さい
本日は御多忙のところを御願い申し上げまして慎重なる御審議を戴き最後の市会を飾る為満場一致御決定を御願申し上げます

以上のように、市長挨拶では、戦災復興における都市づくりについて具体的な発言はない。

次に、1947 年 5 月 10 日の市議会での市長挨拶の内容を、以下に示す。

【1947 年 5 月 10 日議会での市長挨拶】

本日初議会に方りまして一人の故障者病気等の事故者もなく全員御出席下さいまして厚く感謝致すものでありま

す
此の度の議員選挙は激戦で毎日の力戦奮闘を続けられまして遂に八万市民の審判の許に栄冠を得られました事は誠に同慶の至りでありまして心から御歓び申し上げるものであります
多くの衆望を擔われました事は畢章するに各位の不断の徳の表れでありまして高雅卓越の力量を以て大分市政に盡瘁される事を御願い致します
議員各位と私とは畢章するに二人三脚であると信じます
この二人三脚は馬が合わねば出来ないのでありまして皆様と違い私は力量も手腕もなく皆様方と荷物を一荷してかつぐ事は到底出来得ないのであります　だが然し只一念大分市を復興し死をも厭わない決意であります
折角皆様方の叱咤鞭撻を以てどうかして皆様とスクラムを組んで市政運営に献身の努力をはらいたいと存じます
私が就任いたしましてより此度二ヶ月を経過致しましたが市の財政状態は私の考えとは違い　生優しいものではありません　私は益々愛市の念をつよくし市を愛す心は愈々強化するばかりであります　どうか男一匹を買ってやって皆様と共に八万市民に応えたいと存じます
上田保の間違や足りないところはどしどし叱正の答を与えて下さい　上田保は決してその答をなげき悲観するような尻の穴の小さい男ではありません　有難く受けます
暮々も叱咤鞭撻を以てよろしく御願い申し上げます
以上初めての市議会に方りまして簡単ですが御挨拶に代えます

この挨拶においても、戦災復興における都市づくりについて具体的な発言はない。

次に、1947 年 5 月 10 日の市議会での上田の公約等に関する質疑応答を、以下に示す。

【1947 年 5 月 10 日議会での質疑応答】

(1) 甲斐楢英議員の質問

議題外ではありますが四、五分間上田市長に御質問致します
上田市長は市民の与望を擔われて立たれ、初顔合の此の際市政の方針について一寸申上げます
上田市長が立候補の際にはもり沢山の公約をされて居りましたがこれについて就任された現在その公約実現が出来るかどうか市長の責任ある答弁を御聞き致したいと思います
例えば大分市戦災の跡に於いて市民として喜ぶ家を建てる為国有林、県有林を伐採してあてると主張しているがその後可能性はあるかどうか、
次に資金借入のことにおいて日銀の一萬田さんより金をかりると言う公約に対し先日のメーデにおいて否認されたが言明されたかどうか、
更に大道のトンネルについての公約は果たしてその実行の意志があるかどうか、あるとすればその方法其の他明瞭なる言明をして頂きたい　吾々は市民の幸福をはづれる様であれば阻止せねばならないし市民の幸福となれば協力をしなければならない
市民としてもこの実現については疑惑の念をもって居るので公約の事が就任した現在不可能とあれば此の際取り消しておく方が市民にも安心を与えるものと思います
以上三項外其他実行の如何について明瞭して頂きたい
次に食糧対策として本年六月以降には最大の食糧危機が襲いくるものと思う　市民の救助対策に付いてはあまり公約されて居ない様でこの食糧の点にも触れていない様でありますので此の点どんな御考えであるか御答えお願いたい　其の場に臨んでは遅いのであって考える必要があると思う
最後は市長は市政に対して政党を如何に考えられているか、市政の円滑を図る為に政党なるものが不要と考えるかそれともあるいは或る政党の方針で処理して行くかこの点もはっきり答弁して頂きたい
以上御質問致します

(2) 上田の答弁 1

御答え致します
先ず金を借りる件でありますが私は日銀の一萬田君とは友人であるから日銀より借りるとは言はない　只山南部の座談会で庶民金庫は大分県の為に二千万円の金を準備しているので昨年度は別府市の家屋建築に費やされ一日も早く大分市復興の為これを以て家屋建築にかかりたいと思っている　只事業資金なる為に一般の方々には一寸困るそれについては考えているものであります
次に国有林、県有林の問題であるが私はこの問題については東京に手紙を出して居ります　とに角猛運動を興す考えであります　家を建てようとしても復興院よりの許可によって切符制度では間に合いません　どうしても他の戦災都市と協力し猛運動を起こしたいと考えて居ります
困難でなければ前任者が既に手をつけていたと思うのであります　四万五千町歩ありますのでとに角全国の戦災都市と共に猛運動を起こす考えであります
更にトンネルの件でありますが二つ掘るとは言わなかったのです　一つは掘ると申しました大道と西新の地下道の問題と異なっているのではないかと思います
私は山南部に生まれているので御承知の様に舗装道を六百貫積載するものでも三百貫しか積載出来ない有様でありまして山南部方面に行くためにはどうしてもこのトンネルの必要があるのであります　私は予てから念願としているものであります
小野廉さんも東京に来られたとき掘りたいとの御話もありました　又当時衛藤君にトンネルの問題を尋ねました際八百万円はかかると言って居られましたので今では三

千万円か四千万円はかかると思います
これにつきましては先ず私は南大分の諸君を始めとして賀来、狭間等大分川流域の方々に集まって貰い七重の膝を八重に折ってお願いしたいと思うのであります
山南部の方が野菜をもって来て肥をもって帰る、大分市の貧を説いてそんな方々に訴えたい、つまり工事に奉仕を願いたいと思うのです　上田保の徳に少ないところをはたして奉仕してくれるかどうか、虫のよい案ではありますが神ならぬ私、ほんとに利害得失を別して山南部の方は賛成してくれると思います
奉仕して呉れても大分市はむくいることはできない　そこで衛藤君にも話した事もありますが専売局に行って煙草でも御願いし之に報いたいと考えて居ります
私がもう一つ申し上げたい事は臨港線の問題であります
大分港は佛をつくって魂入れずといった形でありますので当時三好さんにも話したのでありますがこの問題について池邊君の専門家に案を立ててもらいましたが結局鉄道省あたりから直接支援を頂かないと出来ないと思っています　鉄道省の吉村栄一氏に申し込んであります　此れとて金が第一でありますが郷里大分の復興の為に御尽力願ってあります
地図も出来て居ります
食糧問題はふれて居らないと申されましたが一ヶ月二ヶ月の余命のない事は充分承知して居ります
そこで一日も早く甘藷、トーキビ、南瓜を植える様に産業課長より呼びかける様申して居ります
打つ手がおそくなれば素麦の配給があるかも知れないのでパンでも作る様にしたいと思ってクロメ、ヒジキ、アラメ等夫々手をつける様配給課長、産業課長に呼びかけて居ります
最後に政党の問題について申し上げます
市政であろうと国政であろうと主義主張であり政党を無視する気は全然ありません　私は大分市の為に渾身の力を注ぎ政党をはばむ気はありません

(3) 上田の答弁１に対する甲斐楢英議員の応答

政党については満足であります協力すべきは当然協力致します
公約については観念的でありまして熱と力を以て不可能を可能とし御自分の感情を以てやられます事は私共一応考えられるのであります
それから金を借りる件が大道六丁目の専想寺の演説会で申した件を聞いた者が十名ばかりありますので他日連れて参ります

(4) 上田の答弁２

私はトンネルの問題等出来ないかも知れませんが配給等の問題等一片の机上の空論の如く思われる事がありますので一応簡単に申し上げます
例えば大分川の問題等にして専門家の見積では百万円要すると言う工事をよろしいでは私がやろうと言って手弁当で実施した所僅かに十四、五万円で完成した例もあります　此の様人夫賃が非常に大きいのであります
最後に初めて市議会でありますので一言今甲斐君の御話に対して申し上げたいと思います
私の申します事は一段と飛躍した案をもっているのであります　この難事を切抜けるには私一人では出来るものではありません
皆様方三十六名と一緒になり真に火の玉となってやるのではなくては到底出来得ないのであります
此の点よりしましてどこまでも厚意的な批判を御願いするものであります　冷眼視してでなくて上田保が市の為に働うとするならばどこまでも叱正の便を与えて下さいその叱正の便は厚意的であって欲しいのです
上田保に仕事をさしてやろうと八万市民の為にも働かせるならば特に此の際これ丈申し上げて皆様の御支援を願うものであります　＜以下省略＞

以上の質疑応答からは、上田の戦災復興における都市づくりに関わる公約として、以下に示すことが確認できる。
公約①：大道トンネルの建設
公約②：臨港線の建設
公約③：国有林等の払い下げによる復興用木材の供給
公約④：復興のための資金借入れ
公約①～③は、既に確認されている公約である。
今回の会議録より、新たにわかったものとして公約①に関する答弁の中で「大道と西新の地下道」という言葉が出て来る。この答弁の中では、この「大道と西新の地下道」がどのようなものであるのかが不明確であり、そもそも公約としていたのかについても不明である。この点については、今後、調査が必要と考えている。
さらに、公約④に関する質疑応答では、甲斐議員の指摘と上田の主張が異なっており、このやり取りの中では、実際、どういうことであったかが不明確であり、この点についても、今後、調査が必要と考えている。

4. まとめ

上田当選後の新聞報道においては、戦災復興における都市づくりに関わる公約は記されていなかった。上田が市長として出席した大分市会等の会議録からは、上田の戦災復興おける都市づくりに関わる主要な公約が再確認できた。

参考文献

1) 日髙圭一郎：上田保の都市政策に関する調査研究-戦災復興施策を中心として- その３，九州産業大学工学研究報告，第 49 号，pp. 93-96，2012.